

## ぼくのおじいちゃん

小五

ぼくのおじいちゃんは、八十二さいです。毎日、田んぼや畑仕事をやっています。車も運転するし、自転車でもこへでも行ってしまふほど元気です。ぼくがおじいちゃんの家に行くと、

「待ってたぞ。」

と言ってジュースやおかしを出してくれます。ぼくが、

「そんなにたくさんいらないよ。」

と言っても、にこにここと笑顔で、いろいろなものを出してくれます。ぼくは、少しこまってしまう。

おじいちゃんは年のせいで、耳が遠くなっています。だから、大きな声で

話さないといけないうときもあります。ときどき、ぼくの話が伝わっていないこともあります。この間、いっしょに食事に行く約束をしました。

「あと十分で出かけるよ。」

と言ったのに、いつの間にかおじいちゃんのがたが見当たりませんでした。ぼくは、おなが空いて仕方ありませんでした。おぼあちゃんがさかしに行くとき、自転車畑へ向かっているときでした。どうやら、出かける時こくが聞こえなかったようです。おじいちゃんがもどってきて、やっと食事に行くことができました。おぼあちゃんはおじいちゃんに話が伝わらなかったことで、不機げんになってしまいました。ぼくもなかなか食事に行けずイライラしてしまいました。

それでも、おじいちゃんはいつもと  
変わらない笑顔で、大好きなおすしを  
食べながら、

「おいしいなあ、おいしいなあ。」

と言っていました。幸せそうなおじい  
ちゃんの顔を見ていたら、さっきまで  
のイライラした気持ちが、どこかへ消  
えてしまいました。それと同時に、お  
じいちゃんに謝りたいという気持ちで  
いっぱいになりました。年をとればだ  
れでも、体が弱ってくるのは仕方あり  
ません。ぼくだっておじいちゃんに  
なったら、耳が遠くなるかもしれませ  
ん。話が伝わらず家族がイライラして  
いたら、悲しい気持ちになると思いま  
す。

ぼくは、どうしたらうまくおじい  
ちゃんに伝えられるか考えてみました。

耳元で大きな声でゆっくり話すように  
したり、大事なことはメモしたりすれ  
ば、しっかり伝えられるのではないか  
と思いました。今度おじいちゃんの家  
に行ったら、ぼくがおばあちゃんの話  
していることを伝えられるように、手  
助けしたいです。ぼくもおじいちゃん  
の目を見て、言っていることが心の中  
の耳にとどくように話しかけようと思  
います。

いつまでも、元気なおじいちゃんの  
笑顔を見たいから。